

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和6年度第4回朝霞第五小学校学校運営協議会		
開催日時	令和7年2月13日（木） 午後2時00分から午後3時30分まで		
開催場所	朝霞第五小学校 体育館3階 会議室		
出席者及び欠席者の職・氏名	正野寛樹 白鳥成章 菅原慎也 梶本太樹 三好正浩（校長） 猪狩一史（教頭） （司会：南雲秀隆（教頭） 記録：尾崎真由美（主幹教諭）） ※【欠席】田辺敏晃、飯倉昇明、高野友則、蔵田ひと美		
議題	(1) 令和6年度学校関係者評価委員会 (2) 令和6年度第4回学校運営協議会 ①令和7年度年間行事予定内容について ②3学期の取組について		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学校評価書 令和6年度教職員自己評価結果 令和7年度朝霞第五小学校年間行事計画（予定） 		
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録		
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録		
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録		
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）		
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月	
	会議録の確認方法 司会・記録による確認		
傍聴者の数	なし		
その他の必要事項			

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

《令和6年度学校関係者評価委員会》

1 開会の言葉 開始 午後2時00分

- ・あいさつ、資料確認（教頭）
- ・関係者評価について、進めさせていただきます。

[会議資料参照]

2 令和6年度学校自己評価について（校長・教頭）

3 学校関係者評価委員から（各委員）

4 質疑応答

領域Ⅰについて

① 学校の組織運営について

猪狩：目指す児童像を意識して学校教育活動を進めてきた。職員の働き方改革の意識も高まっている。先生方のご協力もあり、1月の残業時間45時間越えの教員は一人もいなかった。

白鳥：職員の働き方改革についての実態はどうなっているのか。先生方の感覚として負担が減っているのかいないのか。どう感じているのか。

校長：業務量なのか時間なのかで変わってくるのではないかと。80時間超えはもうほとんどない。校務分掌等の個々の業務量でも変わってくるし、個人個人の先生の取組内容によっても違ってくる。

白鳥：個々の先生でかなり違ってくるはず。

校長：持ち帰り仕事など見えない業務もあるが、持ち出し簿の記録としては多くない。学年主任でも、時間を上手に使っている先生もいる。今まで自分がやってきたことを、今の時代に合わせてそぎ落としていくことも可能な一方で、今まで自分がやってきたことにしばられている先生もいるのも事実。若い先生は、タブレットの使い方など上手で、帰りも早い方が多い。全体的な業務内容としては精査してきていると思う。

領域Ⅱについて

② 基礎学力の定着について

猪狩：タブレットの活用を力を入れてきた。すららドリルは市内の中でも五小の使用率が高くなっている。道徳教育については、課題が残るので引き続き取り組んでいく。基礎学力定着の面から、働き方改革で質を落とさないようにしていかなければと考えている。

橋本：すららドリルとは。

校長：AIドリルで、個々の実態に応じて問題が選択できる。子供自身が学びを進めていける特徴がある。一方で、習っていないところまで進んでいってしまうなど、使い勝手が悪い面もある。授業で使えるために何が必要かを精査して、来年度以降に生かしていきたい。

正野：紙ドリルはなくなっていくのか。

校長：今後そうなっていくと考えている。保護者負担も少なくしていきたい。

正野：学力的にはどうなのか。

校長：今年度開始したばかりなので、まだ本当の実態はつかみきれていない。

菅原：一生懸命やっている児童の姿を見たことがあった。児童は意欲的に取り組んでい

と思う。

猪狩：タブレット上だと、漢字などは難しい面がある。

猪狩：AIが採点することで、教員の負担も減ると考えている。

菅原：先生方の負担にならなければとてもよいと思う。分からない先生には何か対応しているのか。

猪狩：年度当初にミニ研修を先生同士で行っている。

③ 生徒指導について

猪狩：生徒指導主任を中心に、いじめはどんな小さなものでも報告し、組織的に対応するようにしている。不登校対策委員会、いじめ対応委員会等を定期的に行い、新規不登校児童を出さない取組を行ってきた。今年度は、規律ある態度に重点を置いて指導にあたってきた。次年度は、より細かいところに踏み込んで指導していきたい。

菅原：いじめで学校を休ませている児童の話聞いた。全体的ないじめの実態、内容について、簡単に知りたい。

猪狩：大きな暴力で不登校はないが、悪口やちょっかい等のいじめで不登校はある。受け取る側の判断に合わせて対応するようにしている。

白鳥：軽微なものも含めると、どれぐらいあるのか。

校長：数十件にはなると思う。アンケートや教育相談等で上がってこないものもあると思うが、把握が難しい。物隠しなど、いたずらなどもいじめが隠れているかもしれないと考えている。いじめ案件が出た際は、本人同士、その保護者等にも聞き取りし、3か月を目安に、現状について本人、保護者に確認をとっている。

菅原：クラスが変わると状況が変化することが多いが、友だち同士の影響が強い面があり、不安に思う。不登校のケアも含めて心配している。

橋本：職場の近くでいじめを発見したことがあった。自転車で行く手をふさぐ、帽子をとるなどし、走りさっていった。慌ててとめたが、このように見える形のものはまだいいが、見えないところでやるような陰湿ないじめが心配。

白鳥：不登校は何名くらいか。

校長：10人以上となっている。オンライン学習や保健室登校など、さまざまな形の不登校の実態がある。親の判断で無理に登校させない場合もあるが、教師の声がけが大事だと考えている。長期の不登校児には定期的に安否確認を行うようにしているが、声だけだと心配になる。顔を見たいが、会いたがらない場合もあり、心配している。不登校傾向を含めると30は超えてくるのではないか。

白鳥：五小は他からみて多いのか少ないのか。

校長：他校の詳細は分からない。

正野：学校なのか、家庭なのか。問題の要因はどこにあるのか。

校長：色々な実態があるが、家ではオンライン学習に取り組んでいる実態などからみると、外に出にくくなっていることや集団生活が苦手、コミュニケーション面で課題がある子が多いのではないか。児童一人一人で実態が違うので、何とも言えない。

橋本：学校に行く意味が変わってきているのかもしれない。親が意義を伝えているのかどうか。

校長：昔と比べると、遊び方・コミュニケーションの仕方も変わってきている。

白鳥：無理して行かなくてもいいなど、親の考えも変わってきている。

正野：不登校の児童は、その後どうなるのか。

校長：きっかけ次第で変わる場合もある。

菅原：中学校の実態はどうなのか。

白鳥：小学校に比べると、さらに多い。教室以外の場所（別室）で過ごせるのも逆によくない面もあるのかもしれない。

梶本：社会問題でもあると思う。もっと社会全体で考えていかなければいけないのではないか。

白鳥：地域性も関係あるのか。家庭が大きいのでは。五小は過保護、過干渉な傾向があると思う。それも影響しているのではないか。

菅原：少しでも減らしていけるよう、学校の魅力をさらに伸ばしていけるよう、協力していきたい。

④ 体力向上について

猪狩：けやきタイムの持久走や体育の授業の補教運動に、年間を通して取り組んできた。先生方が、毎日休み時間に児童と一緒に外遊びを行っている。それも体力向上への大きな要因と考えている。新体力テストで数値が低いところに関しては、引き続き次年度の課題にしていく。

領域Ⅲについて

⑤ 地域とともにある学校づくりについて

猪狩：今年度も学年だより、学校だよりを中心に情報公開を行ってきた。tetoruを活用して、市教委からの情報等も発信することができた。また、学校運営協議会での熟議を通して、よりよい学校づくりを進めることができた。

領域Ⅳについて

⑥ 特色ある教育活動について

猪狩：今年度は、a uに来ていただき、特別授業や親向けの講話等を行うことができた。無言清掃の指導にも力を入れ、静かに清掃に励む児童の姿が見られた。次年度以降、あいさつ運動の取組について引き続き行っていく。教師が率先して取り組めるようにしていきたい。

白鳥：ガラスの外側など、清掃できないところの汚れが気になる。

菅原：学校応援団の清掃で、マグネットを活用して窓掃除をやってみた。安全面に気を付けながら、安価で用意できるものもあるので、きれいにしていきたい。

白鳥：学校づくり上、手が届かないところは、行政などに何か対応してもらえないのか。

校長：足場が組めないところもあり、なかなかきれいにできない現状がある。校舎の屋上壁面緑化も老朽化で使えなくなっている。

校長：集金方法が口座引き落とし（ゆうちょ）になる。先生方の負担も減ると考えている。一方で、間違いがないよう、より丁寧に集金準備を進める必要がある。

白鳥：PTA会費はどうなるのか。市内中学は口座引き落とし名が、一緒になっているが、問題ではないのか。

校長：五小では、PTA会費について別団体での登録をお願いしている。

5 閉会（教頭）

- ・以上で学校関係者評価委員会を終了とします。
引き続き、第4回学校運営協議会に移らせていただきます。

《令和6年度第4回学校運営協議会》

1 開会の言葉（教頭）

2 会長あいさつ

正野：本日の議題は、年間行事予定、3学期の教育活動となっております。地域と連携を踏まえたご意見を、どうぞよろしくお願いいたします。

3 校長あいさつ

校長：前半の協議について、ご意見ありがとうございました。次年度に向けて生かしていきたいと思えます。今年度、さまざまなご協力ありがとうございました。6年生の登校も少なくなってきました。子供たちは、感謝の会の準備で、パワーポイント作成等を進めています。4年前のタブレット導入からの変化が大きく、上手に使いこなしながら学習を進めています。それも先生方の指導のおかげだと考えています。すららドリルのミニ研修会の話がありましたが、これは先生方の声から始まったものです。そこには、新しいものに対してどうやって使ったらよいか、子供たちへどう指導したらよいかなどの考えがあり、日々その努力に感謝しております。本日は、朝霞市民会館で、なかよし発表会もありました。市内の学校の発表がありましたが、中学生も小学生もそれぞれ素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。五小の児童は、入場の姿がとても良く、ダンスの発表も大変盛り上がりました。子供達の充実感も伝わり、保護者も喜んでいたのではないかと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

正野：それでは本日の議事に移らせていただきます。この会議は原則公開するものとなりますが、委員の皆様には、ご賛同いただけますでしょうか。
(委員のうなずき)

正野：本日の会議は、委員11名のうち、半数以上の出席がありますので、朝霞市学校運営協議会規則第10条により、成立となります。議事については、一括審議とします。

4 熟議

(1) 「令和7年度年間行事予定内容について」

[会議資料参照]

【質疑・応答】

白鳥：授業参観は1・2学期にはないのか。

主幹：1・2学期は学校公開を予定している。

正野：学年によって、行事の忙しさの偏りはあるのか。

校長：6年生の2学期は行事が重なっている。6年生は卒業のアルバム作成もあるので何かと忙しい。来年度は五小の発表があるので、2学期は忙しくなると思う。発表時期については、職員で検討して決めた。

白鳥：林間学校を赤城に変更するのは、市内でそういう流れがあるのか。

校長：五小は来年度から赤城だが、令和8年度は市内一斉に赤城に変更の予定。

菅原：三中校区ふれあいまつりの日程は、決定かどうか。

校長：会場が三中で行うことから、ほぼ決定かと思う。担当は五小。

(2) 「3学期の取組について」

猪狩：2学期に延期になっていた2年生の音楽発表を行うことができた。4年生総合では、ボッチャの体験を行った。障害のある方との交流もできた。たてわり交流遊びでは、6年生主導で異年齢交流を行った。3学期もたてわり持久走の取組を行った。体力向上面のみで考えると、学年ごとに実施するかどうかを検討している。不審者対応訓練では、訓練後、実際の訓練の動画を見ながら、朝霞警察署の方にご指導いただいた。1年生のランチルーム給食では、牛乳の代わりにりんごジュースが出るので皆嬉しそうだった。調理員さんのお話も聞けるので、食育の良い取組の一つだと考えている。総合みんなの声を届けよう（6年4組）では、朝霞市役所の職員が来校し、職員に向けて児童が、「ボールで遊ぶ場所」や「たんぼポイント」の提案をするなどし、意欲的に学習していた。

校長：6年生の授業については、市役所側から（ゲストティーチャー）授業の検証を行いたいとの旨で、依頼があつて実施した。担任教師の協力もあり、子供は楽しみながら真剣に考えていた。非常に前向きな授業展開になった。

【質疑応答】なし

5 諸連絡（教頭）

- ・次回の開催日について
- ・各委員の任期について

6 閉会の言葉（教頭）

終了 午後3時30分